

(2013年度)

1 数 学 問 題 (60分)

(この問題冊子は6ページ、3問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで、問題冊子を開いてはならない。
 2. 試験開始前に、監督から指示があったら、解答用紙の右上の番号が自分の受験番号と一致することを確認し、所定の欄に氏名を記入すること。次に、解答用紙の右側のミシン目にそって、きれいに折り曲げてから、受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し、机上に置くこと。
 3. 監督から試験開始の指示があったら、この問題冊子が、上に記したページ数どおりそろっていることを確かめること。
 4. 筆記具は、HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能、計算機能、辞書機能などを使用してはならない。
 5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで、そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
 6. マークをするとき、マーク欄からはみ出したり、白い部分を残したり、文字や番号、○や×をつけてはならない。
 7. 訂正する場合は、消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
 8. 解答用紙を折り曲げたり、破ったりしてはならない。
 9. 試験時間中に退場してはならない。
 10. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
 11. 問題冊子、計算用紙は必ず持ち帰ること。
- ◎ この問題冊子の余白を計算用紙として使用してよい。

マークによる数値解答欄についての注意

解答欄の各位の該当する数値の欄にマークせよ。その際、はじめの位の数が0のときも、必ずマークすること。

符号欄がもうけられている場合には、解答が負数の場合のみーにマークせよ。
(0または正数の場合は、符号欄にマークしない。)

分数は、既約分数で表し、分母は必ず正とする。また、整数を分数のかたちに表すときは、分母を1とする。根号の内は、正の整数であって、2以上の整数の平方でわりきれないものとする。

解答が所定欄で表すことができない場合、あるいは二つ以上の答が得られる場合には、各位の欄とも々にマークせよ。(符号欄がもうけられている場合、ーにはマークしない。)

[解答記入例] アに7, イに-26をマークする場合。

符号	10 の 位										1 の 位													
	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Z	-	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	Z
ア	-	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○
イ	-	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○

[解答表示例]

$-\frac{3}{2}$ を、 $\frac{\boxed{}}{\boxed{}}$ にあてはめる場合 $\frac{-3}{2}$ とする。

0を、 $\frac{\boxed{}}{\boxed{}}$ にあてはめる場合 $\frac{0}{1}$ とする。

$-\frac{\sqrt{3}}{2}$ を、 $\frac{\boxed{}}{\boxed{}}\sqrt{\boxed{}}$ にあてはめる場合 $\frac{-1}{2}\sqrt{3}$ とする。

$-x^2 + x$ を、 $\boxed{}x^2 + \boxed{}x + \boxed{}$ にあてはめる場合
 $\boxed{-1}x^2 + \boxed{1}x + \boxed{0}$ とする。

1 (1) θ を $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ を満たす定数とする。 x の 2 次方程式

$$x^2 \sin \theta - x \cos 2\theta + \sin \theta = 0$$

が重解を持つとき

$$\sin \theta = \frac{\boxed{\text{ア}} + \sqrt{\boxed{\text{イ}}}}{\boxed{\text{ウ}}}$$

である。

(2) 関数

$$y = \left(\log_3 \frac{x}{27} \right) \left(\log_{\frac{1}{3}} \frac{3}{x} \right) \quad \left(\frac{1}{3} \leq x \leq 27 \right)$$

は、 $x = \frac{\boxed{\text{エ}}}{\boxed{\text{オ}}}$ のとき最大値 $\boxed{\text{カ}}$ をとり、 $x = \boxed{\text{キ}}$ のとき
最小値 $\boxed{\text{ク}}$ をとる。

(3) 整式 $P(x)$ を $x - 2$ で割ると -3 余り、 $x^2 + x + 3$ で割ると $3x + 9$ 余る。このとき、 $P(x)$ を $x^3 - x^2 + x - 6$ で割ったときの余りは
 $\boxed{\text{ケ}} x^2 + \boxed{\text{コ}} x + \boxed{\text{サ}}$ である。

- 2 Oを原点とする座標平面上に直線 $\ell : y = 2x$ および原点を通る直線 m がある。 m は傾きが正で、 ℓ とのなす角が $\frac{\pi}{4}$ である。点Pは直線 ℓ の下側かつ m の上側の領域を $OP = 1$ を満たしながら動く。 ℓ に関してPと対称な点をQ、 m に関してPと対称な点をRとする。

(1) m の傾きは $\frac{\boxed{シ}}{\boxed{ス}}$ である。

(2) Qが y 軸上にあるとき、Pの座標は $\left(\frac{\boxed{セ}}{\boxed{ソ}}, \frac{\boxed{タ}}{\boxed{チ}} \right)$ である。

(3) 直線OPと直線 m とのなす角を θ $\left(0 < \theta < \frac{\pi}{4}\right)$ とおく。

$\triangle PQR$ の面積は $\theta = \frac{\boxed{ツ}}{\boxed{テ}} \pi$ のとき最大値 $\frac{\boxed{ト}}{\boxed{二}} + \sqrt{\boxed{ナ}}$

をとる。このとき $\tan \theta = \boxed{ヌ} + \sqrt{\boxed{ネ}}$ であり、直線OP

の傾きは $\frac{\boxed{ノ}}{\boxed{ハ}} + \frac{\boxed{ヒ}}{\boxed{フ}} \sqrt{\boxed{ヘ}}$ である。

3

数 1, 2, 3 がそれぞれ 2 つの面に書かれた立方体のさいころ (1, 2, 3 の目がそれぞれ $\frac{1}{3}$ の確率で出るさいころ) を投げたとき出た目の数を a とし, 3 枚の硬貨を同時に投げたとき表の出た枚数を b とする。

(1) a の期待値は $\boxed{\text{ホ}}$, b の期待値は $\frac{\boxed{\text{マ}}}{\boxed{\text{ミ}}}$ である。

(2) 上記のさいころと硬貨を使って A 君と B 君が勝負をする。 $a > b$ のとき A 君の勝ち, $a < b$ のとき B 君の勝ち, $a = b$ のときは引き分けとする。

(i) 1 回の勝負で, 引き分ける確率は $\frac{\boxed{\text{ム}}}{\boxed{\text{メ}}}$ である。

(ii) 1 回の勝負で, B 君が勝つ確率は $\frac{\boxed{\text{モ}}}{\boxed{\text{ヤ}}}$ である。

(iii) 2 回の勝負で, A 君の勝った回数の方が B 君の勝った回数より多くなる確率は $\frac{\boxed{\text{ユ}}}{\boxed{\text{ヨ}}}$ である。

(iv) 2 回の勝負で, B 君の勝った回数の方が A 君の勝った回数より多くなる確率は $\frac{\boxed{\text{ラ}}}{\boxed{\text{リ}}}$ である。

(v) 3 回の勝負で, A 君の勝った回数の方が B 君の勝った回数より多くなる確率は $\frac{\boxed{\text{ル}}}{\boxed{\text{レ}}}$ である。

